

日事 る知 あの

岐阜県知事

古田 肇



◎局地的豪雨を想定した防災訓練を

実施

九月十七日(金)

七月十五日から十六日にかけて、わずか五時間の間に二百五十mm前後の激しい雨が降ったことに起因する冠水、土砂災害などにより県内で死者・行方不明者六名を出すなど、甚大な被害が発生し、十八日には菅総理も現地を視察された。

今回の災害で得た貴重な教訓を生かしていくため、有識者を交えた災害の検証委員会をすぐに立ち上げ、ソフト面、ハード面から十二テーマ五十八項目の検証を行った。

この日は、検証を踏まえて見直した新しい防災マニュアルに基づき、短期的・局地的豪雨災害への対応能



菅総理に被災状況を説明(7/18)

力の向上を図るため、市町村、消防本部、県警本部の協力・参加の下、防災訓練を実施し、県・市町村の防

災体制の点検や、優先して収集する重要情報の整理などに取り組んだ。

今後とも、必要に応じて見直しを行うなど、不断の努力により、市町村や関係機関と連携し、災害に強い岐阜県を目指していきたい。

◎木工産業に従事する若手技術者と

意見交換

九月二十八日(火)

高山市を訪れ、「飛驒の家具」の未来を作っていく木工会社の若手技術者と意見を交換した。

県土の八割を森林が占める本県では、古くから木工産業が盛んである。その中でも「飛驒の家具」は本県が誇るブランドであり、平成二十年には地域団体商標を取得し、地域を挙げてブランドを守り、価値向上に取



若手技術者と熱く意見を交換

り組まれている。

「今後十年、二十年と、いつまでも飛驒家具にこだわって、飛驒で頑張っていきたい。」「安価な大量生産品とは異なる飛驒家具に誇りを持って、守っていききたい。」といった力強い意見が参加者からあり、歴史ある「飛驒の家具」が未来へと続いていくことを確信した。

県内産業の活性化のためには、このような本県の良いモノを、国内のみならず、海外へも積極的に売り込んでいく取組みがなされるよう、県としても支援していくことが重要であると意を強くした。

◎ APEC 中小企業大臣会合が開催

十月一日(金)～三日(日)

アジア・太平洋地域の二十一カ国・地域から約一万一千名が参加し、「APEC 中小企業大臣会合」、「APEC 中小企業シンポジウム」、「APEC 女性起業家サミット」、「楽市楽座 APEC 国際見本市」などが開催された。

本県では、歓迎レセプションを開催するとともに、中小企業の視察やさまざまな体験メニューの提供を行い、本県の自然・観光資源や中小企業の持つ技術アピールするとともに、人脈作り、国際交流に向けた機運や素地作りを進めた。

海外からの参加者の方々からは、岐阜のおもてなしの素晴らしさ、自然の美しさ、中小企業の技術力などを高く評価する声相次ぎ、会合終了後の記者会見でも「クリーンでグリーンな岐阜を開催地としたのは素晴らしい選択であった」という評価が多々あった。

この得られた評価を、実際のビジネスや観光誘客につなげていくため、県内中小企業の海外展開を後押ししていくとともに、参加者との継続的な交流を深めていきたい。



歓迎レセプションで岐阜の地酒で乾杯

◎「ぎふを味わおう」キャンペーン

十月十一日(月)・祝(十一月三日(水)・祝) 本県への観光の「動機付け」を強化するための観光誘客キャンペーンとして、東京都港区の青山通り周辺で、「ぎふを味わおう」キャンペーンを実施した。

世界的にも著名なレストラン「レ・クレアシオン・ド・ナリサワ」で本県の食材を活用したメディア向けレセプションを開催したほか、青山エリアの食・モノの人気店とコラボレートして県産品を提供する「五感で楽しむAOYAMA ショップラリー」や、千三百年の伝統を誇る「美濃和紙」を使ったあかりアートの展示、本県の癒し風景の写真展示など

を通じ、観光と食・モノなどをセツトに、エリア一帯で演出した。今後、名古屋や大阪都市圏においても同様のキャンペーンを実施し、さらなる誘客を促進していきたい。



成澤シェフが岐阜のアユを使ったパスタを紹介

◎中国(上海)市場へのプロモーションを実施

十月二十一日(木)～二十七日(水)

中国は観光誘客や県産品販売の非常に魅力的な市場であるため、これまでも中国メディアの招聘事業などPR活動などを行ってきたが、より強化・推進していく契機とするため、上海万博日本館で「岐阜県の日」を開催した。

約四百㎡のイベントステージには、美濃和紙による巨大なスクリーン「ウォーターシアター」を設け、そこに清流や滝をはじめ、四季の映像を映し出した。加えて、水音や霧、香りなどを使うことにより「清流の国ぎふ」を五感に訴えかけ、来場者からは感嘆の声が上がっていた。

また、上海市内の百貨店で観光物産展を開催し、「岐阜県ブランド」のテストマーケティングを二十三の企業・団体が参加して実施した。会場は大盛況で、参加した企業・団体は確かな手応えを感じていた。

今回のプロモーションを契機に、中国への県産品の輸出や中国からの観光客が増加するよう、より積極的に取り組んでいきたい。



来場者一人ひとりに声をかける(10/23)